

「第3回庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会※」（11/14 10:00～12:00 熊本城ホール3F 大会議室A1）において、まちづくりプランの対象エリアにおける基礎調査の結果を報告し、今後のまちづくりに関する視点や方向性のほか、新庁舎整備基本計画の検討状況などについてご議論いただいた。

※当日の資料については参考資料を参照。

■議論の要旨

1 まちづくりプラン対象エリアにおける基礎調査の結果について

○基礎調査（人口・世帯、土地建物利用、観光・産業、交通・歩行者ネットワーク）により明らかになった対象エリアが有する“ポテンシャル”や“課題”について共有し、所感やさらに調査・分析が必要な要素等についてご意見をいただいた。

<主なご意見>

- ・基礎調査の結果から、課題はありつつもこれからの熊本を考えるポテンシャルは十分にあることがわかった。
- ・基礎調査の結果から、電車通りエリアは、土地建物利用、観光、産業、交通面などポテンシャルが高く、まちづくりのキーになる。
- ・観光について、どこの国から、どの程度、どのような手段で来熊しているか等の分析も必要。
- ・一つの産業に過度な依存をしない複数の軸を持つ必要性は理解するが、見え方によっては、観光施策をほどほどにするようにも見える。観光については、高付加価値旅行者向けの対応も含め充実が必要であり、表現の工夫が必要。

2 庁舎周辺まちづくりの視点と方向性について（次頁につづく）

- 基礎調査の結果を踏まえ設定した「庁舎周辺まちづくりの視点と方向性」について、検討委員会としての意見を確認し、概ね了承をいただいた。
- 今後、議会での議論はもとより、くまもとまちづくりラボでの意見等も伺いながら、適宜、視点や方向性の精査を行っていくことを確認。

<主なご意見>

- ・2核3モールに、電車通りエリアを加えた新たな（オープンループ上の）都市骨格をいかしたまちづくりを進めてはどうか。
- ・まちづくりのうえで、電車通りの東西をつなぐ横の動線が重要となる。
- ・電車通りエリアのにぎわいをいかに中心商店街エリアに波及させるかが重要。
- ・新庁舎周辺や現庁舎跡地周辺を、どのような役割を担うエリアにするかは、これから検討が必要。

■議論の要旨（つづき）

2 庁舎周辺まちづくりの視点と方向性について（つづき）

<主なご意見(つづき)>

- ・福岡と対抗するのではなく、熊本の良さを活かした展開やTSMC進出などの新しい流れを活かしながら、福岡とは違う路線でまちづくりを進めることが重要。
- ・身の丈に合った成長をしつつ、長期的な大きな戦略を進めるという、2面性を持った展開が必要。
- ・上通・下通・新市街の商店街はウォーカブルなエリアであるが、周辺では渋滞が発生しており、県と市で全力をあげて解消していく必要がある。
- ・上通周辺には、観光客等の回遊が少ないため、文化的な施設等を活かし、回遊性を高めていくことも重要。
- ・まちなかにまとまったオフィス床が欲しいが供給がない、という話もあり、電車通り沿いのオフィスビルの建替えを促進することで、ニーズに対応することも必要。
- ・熊本らしさは重要であり、建替え、産業誘致の際にも、熊本らしい街並みをつくっていくという工夫がデザイン上にも必要。
- ・8月の記録的な大雨の経験から、避難場所への誘導サイン等などの視点も含めてまちづくりを進めてほしい。
- ・体験につながる観光という面では、熊本城だけでなく、水や熊本のカルチャーなどの魅力も活かしていく必要がある。

3 新庁舎整備基本計画検討状況について

- 基本計画の仮コンセプトについて、概ね了承をいただいた。
- 検討委員会での意見も踏まえ、引き続き、新庁舎整備基本計画検討分科会を中心に整理を進めていくことを確認。

<主なご意見>

- ・「森」という新庁舎のコンセプトは、自然豊かな熊本の緑のイメージや、あらゆる生物が共存するという社会のイメージに合致している。
- ・市民会館側やサクラマチ側とのデッキでの接続や、電停からの動線などは、ウォーカブルや公共交通利用促進の観点からも重要であり、道路行政とも連携して、議論を深めていただきたい。
- ・断面イメージでは、議会棟が一番上になっているが、現庁舎でも市民がまちを眺める機能を持っている庁舎であるため、その点も大事にしていきたい。
- ・中央区役所建設地予定地は、大型バスの駐車場となっており、閉鎖による影響や今後の対応についても検討すべき。